

# 資料編



# 1 基調講演資料

スライド 1

**子どもの参画による子どもにやさしいまち  
～世界の動向から奈良の将来を考える**

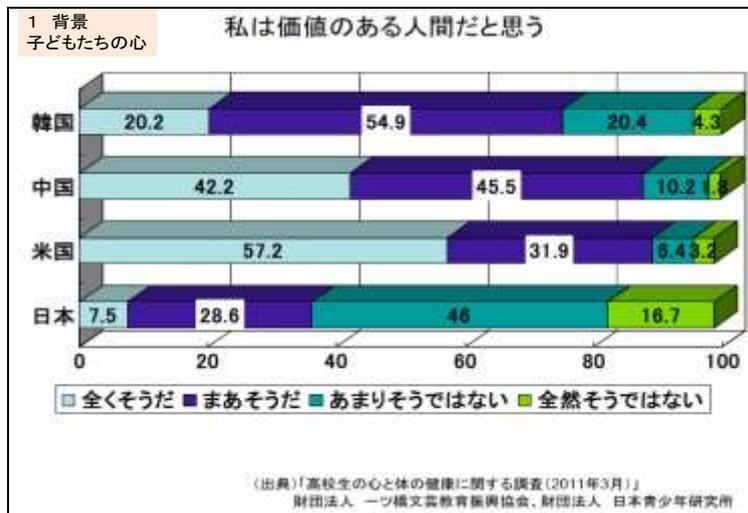
**奈良市 未来をひらく子どもシンポジウム**

◇ 日 時 平成25年5月19日(日)午後1時から午後3時30分  
 ◇ 場 所 はぐみセンター(奈良市保健所・教育総合センター) 9階 大講座室

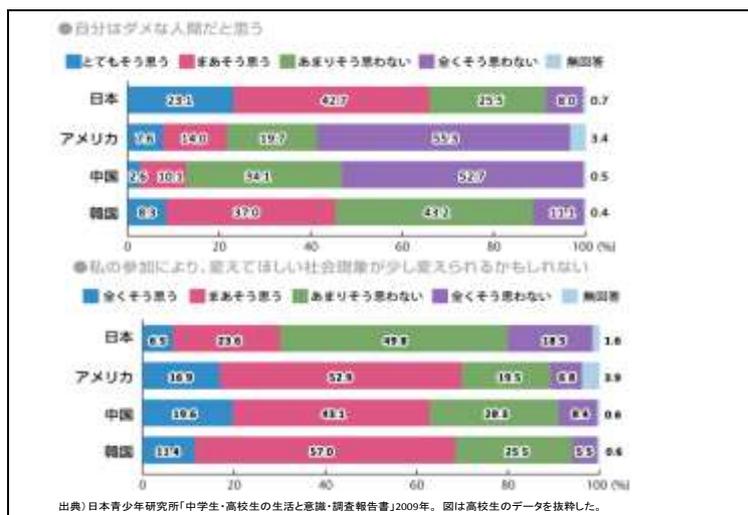
千葉大学大学院園芸学研究所 教授  
 木下 勇

ユニセフ 子どもにやさしいまち(CFC)  
 国際諮問委員会委員

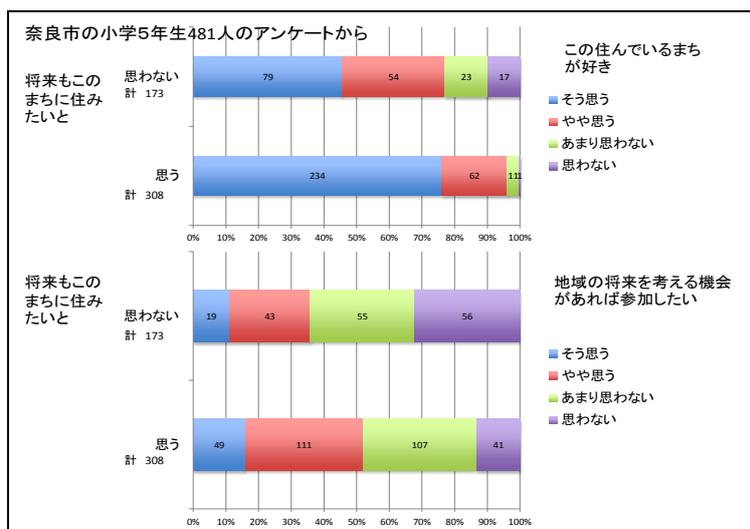
スライド 2



スライド 3



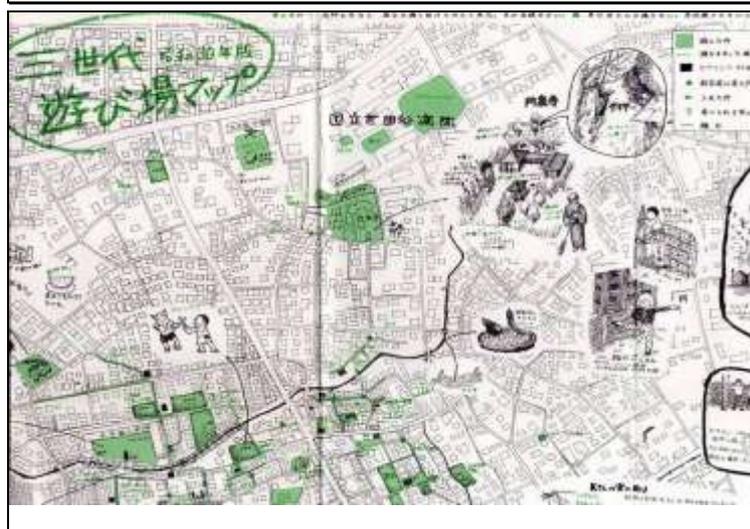
スライド 4



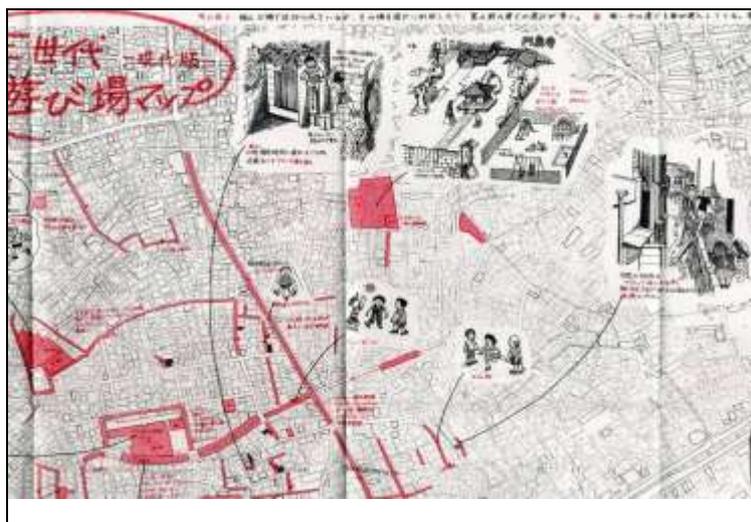
スライド 5



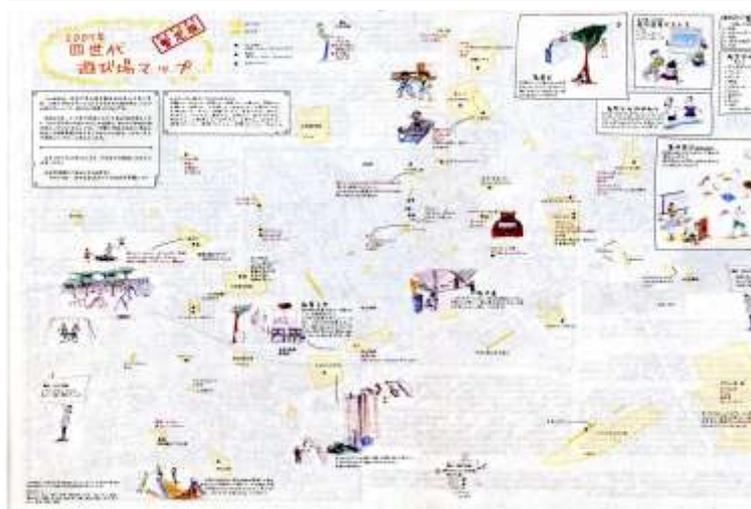
スライド 6



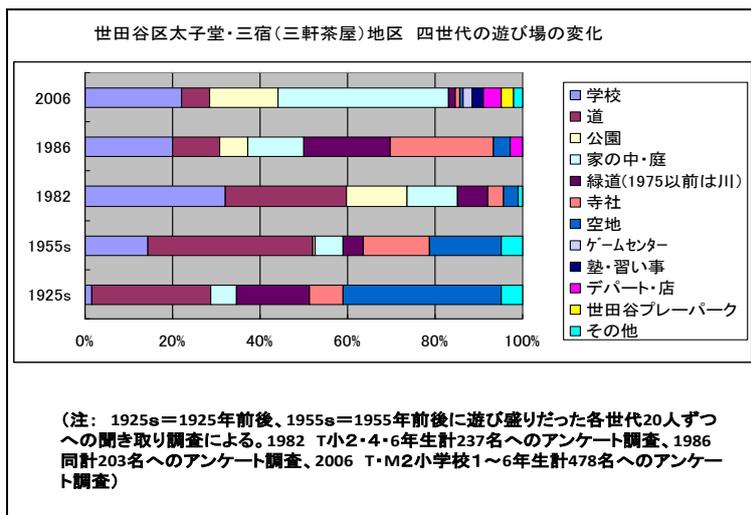
スライド 7



スライド 8



スライド 9



スライド  
10



スライド 11



スライド  
12



スライド  
13

タイトル: 日本学術会議の提言についてお問い合わせ、ご意見:  
「我が国の子どもの育成環境の改善にむけて」に、違和感を感じました。道路遊びを前提に書かれているのでしょうか? **道路遊びは危険であるとともに、騒音の問題**があります。提言の中に「乳児の鳴き声が常に響く保育室は70~90dB程度とかなりうるさいことも指摘されており、吸音対策の必要性も検討すべき」とありましたが、道路で児童が複数で遊ぶ騒音はそれ以上です。ボール遊びは、窓を閉めても防げない性質の音です。また、道路遊びに使われる場所というのは、一日中誰かが遊んでおり、重篤な問題です。「家の一番の役割は人が休めること」であり、大人にとっても、子どもにとっても同じです。**道路遊びの被害**にあっている家は、子どもの健全な育成どころではなく、子どもや家族が病気で、ゆっくり寝かしてあげることさえできません。窓も常に閉めつきりで、非常に不健全な生活を強いられます。また、騒音は循環器や神経に大きな影響があります。健全な子ども育成というスローガンの元に、一部の子どもや大人の、健康、生活を踏み台とするようなことのないよう検討をお願いいたします。-----

タイトル: 子供の道路遊びは非常に迷惑です。  
お問い合わせ、ご意見:  
子供を遊ばせられる道路を提案、子供の道路遊びを肯定しているような記事にとっても迷惑している。毎日数時間も自宅前で続く集団の**道路遊びと井戸端会議の騒音で苦痛を強いられている者**として、住宅街の道路遊びは子供のためと主張する人間の詭弁や抗弁に使われるような記事の掲載は非常に遺憾である。非現実的な提案や理論だけが先走った展望で、公の機関から道路遊びを擁護するような記事を掲載する事は控えてもらいたい。**騒音を取り締まる法律、道路遊びを禁止する法律の整備や、子供を放置して騒音を撒き散らしてもよい区画と静かに暮らす権利を守る区画への住み分けを実現する事こそ急務**かと思う。まずは誰もが家が静かに寛ぐ事ができる権利を保障してからの議論にして欲しい。

スライド  
14

不審者を考えよう 子どもが描いた不審者の絵



子どもたちの不審者像は皆同じ、サングラス、マスク、帽子……

スライド  
15

### 不審者……

- 学校からの帰り道、見知らぬ男の人が突然、棒で私の頭を打った。  
(リサ, 11歳少女)

世田谷でのインタビューより

- 隣の中年の男の人が不審者。だっていつもニヤニヤ笑って私を見るもん。  
(8歳の女の子, 最近、越してきた。小金)



スライド  
16



スライド  
17

『私は**日本が子供の天国**であることをくりかえさざるを得ない。世界中で日本ほど子供が親切に取り扱われ、そして子供のために深い注意が払われる国はない。ニコニコしているところから判断すると、子供達は朝から晩まで幸福であるらしい (E. モースの1970, 1877, 1878, 1882 の来日時の様子, 『日本その日その日2』1917, p.68 平凡社1970 )』

『私はこれほど自分の子どもに喜びをおぼえる人々を見たことがない。子どもを抱いたり背負ったり、歩くときは手を取り、子どもの遊技を見つめたりそれに加わったり、たえず新しい玩具をくれてやり、野遊びや祭りに連れて行き、**子どもがいないとしんから満足することがない。他人の子どもにもそれなりの愛情と注意を注ぐ。父も母も、自分の子に誇りをもっている...**(L.バード 1878年の東北の旅『日本奥地紀行』1880. 平凡社1973)』

スライド  
18





スライド  
22

**3. 世界の例**  
**オランダ**

**ロッテルダム**  
**子どもに優しい都市欧州会議**  
**2008. 11.3-5**

- 参加者 約300人
- 発表者 約50人
- 同時に4分科会
- 「アーバンプランニング(都市計画)」と「子どもに優しい都市アセスメント」がテーマ

I. アーバンプランニング  
子どもの遊びは変わっている ロマンティシズム禁物  
総合的施策  
大人のケア 安全と安心

II 子どもに優しい都市 アセスメント  
建設的アプローチ (子どもの権利の主張のみでなく実質的に子どもたちにいい居住環境をつくる)  
3つの質  
持続可能性  
シンプル/コンプリヘンシブ 総合的満足/喜び

III 政治翼  
ヨーロッパに子どもに優しい都市の政治家のプラットフォームをつくる



スライド  
23

**イタリア**

**イタリア コレッジョ**  
**SCHOOL BASED PARTICIPATORY WORKSHOPS**  
**学校ベースの参加のワークショップ**



参加のプロセスの中心的部分である。ワークショップは2つの保育所、3つの小学校、1つの中学校で実施され、子どもと若者が学校の内外で4時間のプログラムに7回参加している。

これらのワークショップによって、子どもたちのニーズ、権利、問題と情報源、たまり場の要求とそこでの活動、関係と立場、まちのサービスと機会について、現実的な状況把握を行うことができた。

**CITY WIDE PUBLIC WORKSHOPS**  
**市役所での公開ワークショップ**



市役所で行われた2回のワークショップは、テーマと解決策に関して、子どもたちと保護者が対話と協働を行うことができた、学校でのワークショップとはまた違う重要な機会となった。

1回目のワークショップでは、(マルチメディアを使って)テーマが説明され、議論され、そして優先事項を共有化したリストが作成された。(教室での作業からの発展)

2回目のワークショップでは、プロセスの結果が評価されて、それぞれのクラスで、具体的なプロジェクトとガイドラインに関する実現のための行動計画へと展開した。

両方のワークショップで、合わせて200人を超える子どもと保護者が活発に活動に参加した。

©Photos by Ray Lorenzo 子ども未来ラボ

スライド  
24

**フランス**

フランスでは 子どもの参加を全面的に推進  
「子どもにやさしい」は持続可能な発展



A selection process based on four fundamentals  
Fundamental 1 : "every day life", special attention to children well being  
Fundamental 2 : child and youth consultation, participation and listening  
Fundamental 3 : international solidarity  
Fundamental 4 : advocacy for child rights

4つの基本のプロセス  
基本1 「日常生活」特に子どもの福祉  
基本2 子ども若者の相談、参画、話しを聞くこと  
基本3 国際連携  
基本4 子どもの権利の擁護

Sustainable development a priority, an "ecological" early childhood center in Paris ©Mélusine Harlé, UNICEF France  
Child friendly cities officer – Rotterdam

スライド  
25



スライド  
26



スライド  
27



スライド  
28



スライド  
29



スライド  
30



スライド  
31

**ミュンヘン- 子どものための都市**

市の総合計画の理念に “ミュンヘンで遊ぼう” “子ども家族に優しいミュンヘン”

**コンテスト:** “Munich – Open for Children”  
より子どもに優しい都市のために for more child-friendliness in the city  
子ども参加の推進

1999 子どもにやさしいレストラン  
2001 子ども家族にやさしい住環境  
1999 and 2001 子どもにやさしいミュンヘン市民(子どもが審査委員会)  
1999 and 2001 アイデア&プロジェクトコンペ  
2006 子ども家族にやさしい住環境

**コンセプト**

- ▶ Background information, Framework conditions
- ▶ Quality criteria of an all-city play promotion
- ▶ Strategies of action, priorities
- ▶ Reference literature

**要約**

- ▶ Important findings, targets, fields of action of the concept

**指標リスト**

- ▶ Questions and indications for all levels of planning and implementation

中央に常勤の副市長直轄の子ども代理人、地域のボランティアの子ども代理人を統括、子どもの声を市政に反映する責任。副市長直轄なので市施策に横断的に強制力を有す。





資料: ミュンヘン市

スライド  
32



スライド  
33

**こどもにやさしいミュンヘン市民**

**Die Mitglieder der Kinderjury**





1. Platz Preiser  
Luiselindl Bach

2. Platz Preiser  
Luiselindl Bach

3. Platz Preiser  
Luiselindl Bach

4. Platz Preiser  
Luiselindl Bach



スライド  
37

**英国**  
英国 ホームゾーン、プレイイン



英国ではプレイイングランド、プレイウェールズ、ロンドンプレイなど子どもの遊びの環境の向上に政策提言をして、また実施に行政、民間企業と連携を組み合わせながら進める団体が組織されている。

特に住宅前の道路を子どもが安心して遊べる環境にするホームゾーンの推進などに貢献している。

写真: 上 ©Adrian Sinclair  
左 Children In The City by Lia Karsten & Willem van Vliet-CYE, 2006

スライド  
38



**The Children's Plan**  
Building brighter futures

子ども計画2007 より明るい未来を築くために  
department for children, schools and families  
子ども、学校 & 家庭局

英国では各国(イングランドやウェールズ等)に**子どもコミッショナー**を置き、子どもの権利条約の推進のため政策の総合的調整を行っている。子どもの声を聞き、政策に反映する役割も担う。  
写真はウェールズの子どもコミッショナー Keith Towler 氏

スライド  
39

**インドネシア**  
74の市町村でこどもにやさしいまちを実施



子どもの参画の場としての  
**子どもフォーラム**  
各地区、市町村から全国へ

第二回 こどもにやさしいまち アジアパシフィック国際会議 2011. 6

スライド  
40



スライド  
41



スライド  
42



スライド  
43



スライド  
44



スライド  
45



スライド  
46



スライド  
47



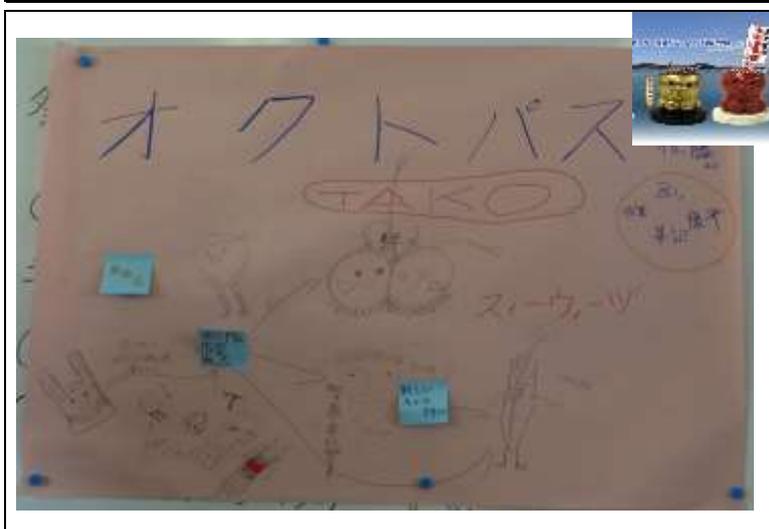
スライド  
48



スライド  
49



スライド  
50



スライド  
51



スライド  
52



スライド  
53



スライド  
54



スライド  
55



第3回  
2012. 1. 29  
町長を招いて懇談。中間報告的にその時に描いている構想を発表。町長から意見を聞く。

スライド  
56



スライド  
57



提案内要  
公民館＋カフェ＋図書館＋展示場所＋ステージ  
＋子ども・ジュニアの居場所＋公園・遊び場

2012年3月25日には市民の前で発表、市民参加のワークショップも世代別のグループで実施。この企画もジュニアリーダーによる。

スライド  
58

After2012年6月30日、計10回のワークショップから提案をまとめることができて、町長に提出。



提案は町への提案と自分たちで行なうことに分かれている。  
町への要望は  
①つながり増えるカフェつき公民館、つながりが増える遊び場所、カフェ付き公民館、図書館の機能(資料展示コーナー)、公園  
②災害に強い安全な町～安心な町づくりのためにあわてないための避難体制、安心安全な避難場所  
ジュニアリーダー自らの行動計画では次の点が打ち出された。  
①地区の子ども会復活に向けた行事の手伝い ②ぶらんこ通信の復活 ③交流事業の活性化

スライド  
59



朝日新聞  
被災の高校生が国連でスピーチ 6日、皇太子さまら聴講

東日本大震災で被災した宮城県南三陸町の高校3年の二浦江のかほり(18)が6日、ニューヨークの国連本部で開催される「水と災害に関する特別会合」に出席し、被災体験を語る。震災から2年。「新しい価値をつくっていくのは私たち」。復興への決意を世界に発信したいという。

二浦さんは国連で涙を流され、舞台の奥で涙で避難生活を送った。夫と夫もは不安におびえ、子どもたちの笑顔から笑顔が戻った。

「みんなを笑顔にしなくちゃ」。中高生のボランティア林間と。新たな町づくりの礎に協力願った。町内の小中高生にアンケートし、交流の場として防災館にカフェをつくることを町に提案した。

こうした活動が国連関係者の目に入り、今回の会合に招待された。復興活動の最前線に発信しよう

と、皇太子さまや各国の政府関係者が聴講する予定だ。

(高橋 洋)

スライド  
60

### 子ども参画の復興まちづくりから

1. 日常的な子ども・若者の参画が、緊急時、避難、復興時に表れてくる。
2. 子ども・若者は大人、お年寄りを元気づけ、つなげる鎡(かすがい)
3. 子ども・若者は復興に参画したいと思っている(子は少ない)。彼らが参画することで未来の地域を背負う人材が育つことになる。
4. 大人の役割はそのパートナー。未来の形成に必要な情報や技術を示しながら、その行動で示す大人の背中を見て、育っていく。

## 日本での取り組み 赤字はユニセフを意識して動きがある所

**子ども条例 子どもの権利条例**

総合条例 23 (川崎市、奈良江町、多治見市、目黒区、茅室町、札幌市等)  
 個別条例 18 (教育やオンブズパーソンなど中野区、鶴ヶ島市、川西市等)  
 原則条例 43 (箕面市、世田谷区等や都道府県に多い)

**子どもの参画**

子ども会議 **川崎、札幌**、多治見市、豊田市、八王子市など多く一般  
 子どもの居場所の運営参画 **川崎、杉並、千葉**など普及中  
 子ども参画のまちづくり **川崎、札幌、世田谷**、ニセコ(中学生会議)、愛知県東郷町(中学生会議による総合計画)、など普及中  
 子ども参画の次世代育成支援行動計画(後期) **千葉、横浜、名古屋**など  
 子どものまち 佐倉、市川、横浜、**札幌**、四日市、**千葉、名古屋**等約20自治体

**子どもの居場所**

杉並(ゆう杉並)、川崎(夢パーク)、千葉(きぼーる、子どもカフェ)等  
 子どもの村(社会的擁護施設)開設 **福岡**こどもにやさしいまちづくりネットワーク(企業も参加)

**子どもにやさしい復興まちづくり** ユニセフ、セーブ・ザ・チルドレン、ワールドビジョン、こども環境学会、子どもの権利条約ネットワーク等の主唱

## 子どもの参画の推進に向けて

- ・ **子どもフォーラム** 行政施策へ意見反映の仕組み
- ・ **子どもコミッショナー** (行政内の部署横断的に調整権限をもって子どもの視点で施策を展開)
- ・ **子どもの参画ファシリテーター**または声を聞いてくれる頼れる大人(まちなオッサン、オバサン)
- ・ **居場所 第三の場所 家、学校以外の居場所**  
 例 道路、駄菓子屋、図書館、児童館・ユースセンター、子どもカフェ  
 頼れるアニキ、アネキ
- ・ **学校、幼稚園、保育園での取り組み** 子ども代表委員会、対話
- ・ **小さな事業から** 園庭・校庭・遊び場づくり等
- ・ **遊びからの参画** 例 こどものまち

### 子どもを育てるには一つの村が必要

(アフリカの諺 ヒラリー・クリントンが紹介 1996『村中みんな』繁田・向田訳 あすなる書房)  
↓

### 村(コミュニティ)を育てるには子どもが必要

(ロジャー・ハート 1995)

Present by the daughter of Ray Lorenzo

## 2 経過報告資料

スライド 1

**奈良市子ども条例検討の  
経過報告**

未来をひらく子どもシンポジウム  
報告：奈良市子ども条例検討委員会委員長 浜田進士  
(特定非営利活動法人 子どもの権利条約総合研究所 関西事務所長)

スライド 2

**奈良市子ども条例とは？**

- ▶ 奈良の子ども支援・子育て支援の「土台」を
- ▶ 奈良を「子どもにやさしいまち」に
- ▶ 「子ども・市民とともに」考え、「未来」への方向を示す
- ▶ 「奈良らしさ」をカタチにする

スライド 3

**なぜ子ども条例なの？**

- ▶ 縦割り行政の壁をクリアする  
【総合性】
- ▶ 継続的で安定した子ども施策を推進する  
【継続性】
- ▶ 子ども支援のシステム・制度を創設する  
【実効性】

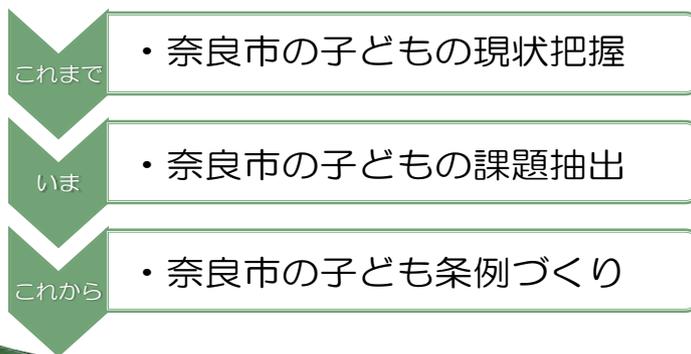
スライド 4

## 奈良市子ども条例検討委員会とは？

- ▶ 子どもに関する条例の内容を検討する
- ▶ 6人の委員
- ▶ 奈良市の子ども関係部局担当者
- ▶ 平成24年3月から
- ▶ おおむね2ヶ月に1回開催
- ▶ （これまで9回開催）

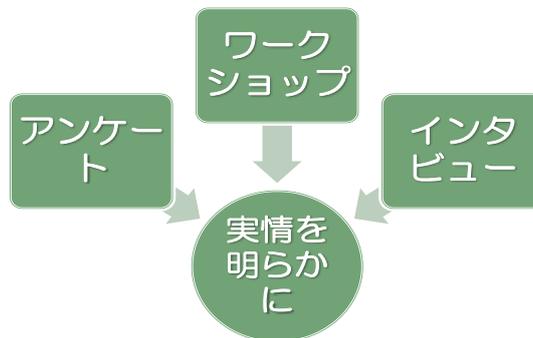
スライド 5

## 検討委員会の役割



スライド 6

## 奈良市の子どもの現状把握



スライド 7

## 子どもワークショップ

- ▶ 子どもが主人公
- ▶ 10歳から17歳 34名の子ども
- ▶ 平成24年7月31日～11月17日
- ▶ 計6回
- ▶ シチズンシップ共育企画  
代表 川中大輔さん
- ▶ 12名の子どもサポーター（学生）

スライド 8

## ワークショップに参加して

- ①子どもはおとなが想像している以上に、深くものごとを考えている。
- ②子どもは言いたいことがいっぱいあることを、おとなは理解できていない。
- ③子どもたちは、奈良市が好き。好きだからこそ、いろんな問題点も知っている。
- ④子どもたちは、奈良市のまちをよくしたいと考えている。
- ⑤奈良のまちづくりに、おとなは子どものことをもっと頼り（あてにする）にしてほしい。

スライド 9

## 条例にどう活かすか

- ①子どもたちが、自由に思いを言える居場所づくり
- ②学校単位から奈良市全体へ
- ③子どもを取り巻く環境を整える
- ④多様な意見を組み上げる仕組み
- ⑤子どもの仲間のチカラの促進

スライド  
10

- ⑥子どもにわかりやすい条例
- ⑦子どもとともにつくる条例
- ⑧子どもを支えるあらゆる事業者の役割を明確に
- ⑨既存の相談機関の検証
- ⑩いじめる⇔いじめられている子どもの関係への対応

スライド 11

### インタビュー調査

- ▶ 声が届きにくい状況の子どもや保護者・関係者から気持ちを聴く
- ▶ 平成24年8月28日～9月3日
- ▶ 児童相談所・母子生活支援施設
- ▶ 児童養護施設
- ▶ 児童家庭支援センター
- ▶ 非行と向き合う保護者、不登校・引きこもりを考える親たちの会

スライド  
12

### インタビューから見えてきたこと

- ▶ 「ルールからはずれた」子どもが暮らしにくい！
- ▶ 「保護者の責任」をどう表現する？
- ▶ 児童虐待対応への高い評価
- ▶ 支援体制・社会的養護機能の充実
- ▶ NPOと自治体との協働とネットワーク
- ▶ 子どもにとって信頼性の高い相談・救済制度をどのように構築するか

スライド  
13

## アンケート調査

### ①奈良市の既存の調査の活用

例：教育委員会の調査  
奈良市ひとり親家庭等実態調査など

### ②独自調査

小学校 5年生	485人
中学 2年生	558人
17歳（高校世代）	470人
おとな（20歳以上）	814人

平成24年12月18日～平成25年1月8日

スライド  
14

## 調査結果

- ①回答者の属性
- ②ふだんの生活状況
- ③地域での生活状況
- ④相談について
- ⑤自己決定について
- ⑥自由意見

スライド  
15

## 子どもには「チカラ」がある

- ▶ 子どもを「もっぱら守られる存在」「もっぱら力を身につける存在」？
- ▶ 「あてにされる存在」「自ら関係を生み出す存在」でもある
- ▶ 子どもの参加を通して、課題を解決していく。

## 生きることの土台をつくる

- ▶ 「あなたは必要な存在だよ」
- ▶ 「生きていていいよ」
- ▶ 「あなたは大切な人間だよ」
- ▶ 「あなたはあなたのままでいいよ」
- ▶ 「がんばってるね」
- ▶ 「ありがとう」